

2025年（令和七年） 6月27日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

当週（6月19日～25日）の国際石油市場は、21日の米国のイラン核施設3か所への空爆で一時的に急騰したが、その後のイランの抑制的な対応、24日の双方停戦合意の動き等から、これ以上の紛争拡大はないとして、値下がりした。

NYのWTI原油先物市場は、6月20日反落の74.93ドルで始まったが、21日の時間外取引で78ドル台に達したものの、24日の64.37ドルまで続落、25日は反発し64.92ドルと一週間10ドル程度の値下がり、60ドル台半ばで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（8月渡し）も、前週（6月12日～18日）は68.80～75.10ドルの範囲で推移したが、当週は、6月19日76.30ドル、20日74.80ドル、23日78.00ドル、24日67.60ドル、25日68.10ドルだった。

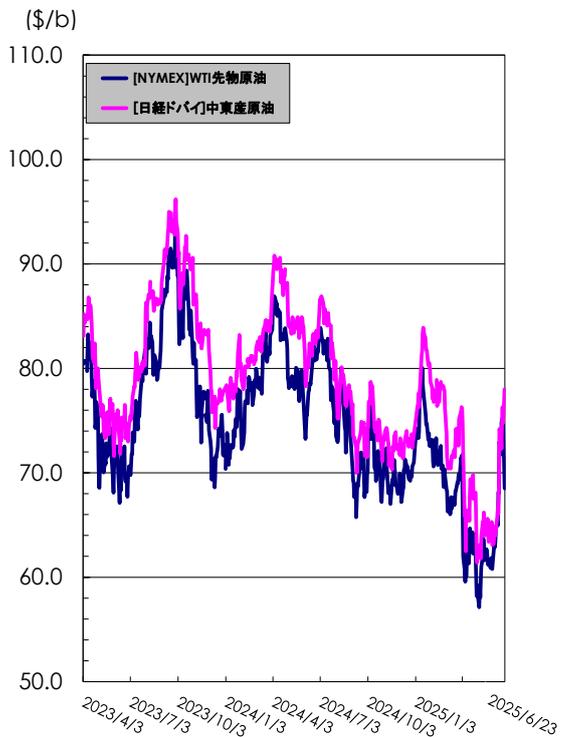
対ドル為替レート（TTM）は前週（6月12日～18日）143.08～145.36円の範囲で推移したが、当週は、6月19日144.92円、20日145.35円、23日146.50円、24日145.72円、25日145.05円だった。

そのような中で、6月23日時点の国内製品小売価格は、ガ

ソリンが前週比1.6円高、軽油も同1.5円高、灯油は同16円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は172.8円だった。

6月26日～7月2日、燃料油補助金の支給額は、新たに「予防的な激変緩和措置」が適用され、ガソリン・軽油の場合13.4円（前週比3.4円増）、灯油・重油の場合6.7円（同1.7円増）となった。

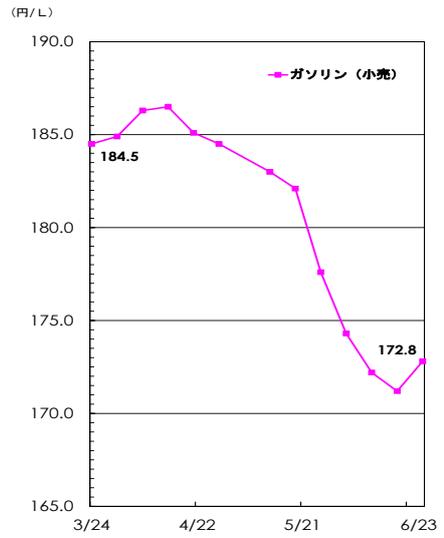
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/15～6/21	2,266 ▼-54	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	65.5 ▼-1.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/21	12,244 ▼-80	▲ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	6/23	78.00 ▲4.60	▼-4.4
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/23	68.51 ▼-3.26	▼-13.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	73.56 ▼-1.70	▼-15.36
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	67,420 ▼-681	▼-19,531
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	145.69 ▼-1.83	▲9.78
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/23	147.50 ▼-2.08	▲13.38



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	6/21	1,782 ▼ -104	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/17 ~ 6/23	78.0 ▲ 4.0	▼ -5.0
価格	(TOCOM/中部)	6/23	80.0 ▲ 10.0	▼ -2.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/23	172.8 ▲ 1.6	▼ -2.0

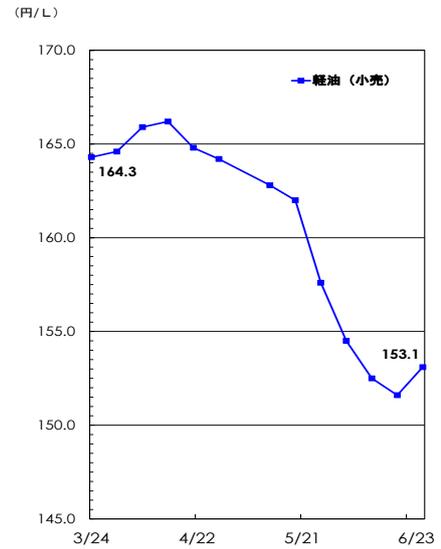
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	6/21	1,633 ▼ -6	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/17 ~ 6/23	80.6 ▲ 2.5	▼ -3.5
価格	(TOCOM/中部)	6/23	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/23	153.1 ▲ 1.5	▼ -1.3

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	6/21	1,996 ▼ -17	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/17 ~ 6/23	78.6 ▲ 2.2	▼ -2.9
価格	(TOCOM/中部)	6/23	82.0 ▲ 6.0	▼ -1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/23	121.9 ▲ 0.9	▲ 4.8



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（6月12日～18日）のNYMEX・WTI先物市場は、68.04～75.14ドルの範囲で推移した。

当週6月19日は、休日につき休場。

週末20日は、19日夜米国高官が大統領の言葉として、イランへの米国に軍事介入は2週間以内に決断すると発言、また、この日、イランと英仏独の外相が会談、交渉による紛争解決の方向で合意するなど、このところの緊張は後退、わずかに反落した。7月物終値は前営業日比0.21ドル安の74.93ドル。

週明け23日は、22日の米国のイラン核施設（フォルドウ、ナタンズ、イスファハン）の空爆を受け、夜間の時間外取引で一時的に78ドル台を付けたWTI先物取引も、イランの反撃・報復も、カタールの米国空軍基地に限定され、また、ホルムズ海峡の航行にも障害は出ていないことから、緊張は緩和、大きく値下がりした。この日から取引の中心限月となった8月物終値は5.33ドル安の68.51ドル。

24日は、23日夜の「イスラエルとイランは完全かつ全面的な停戦に合意」とのトランプ大統領のSNSで、中東地域の緊張は大きく後退、大幅に続落した。双方ともに、一部に停戦違

反は見られるものの、停戦に向けて動き出している。中心限月ベースでは、6月5日以来3週間ぶりの安値。8月物終値は同4.14ドル安の64.37ドル。

25日は、イラン・イスラエルの今後の不透明感が残っており、米国石油在庫の減少、パウエル米国連邦準備制度理事会議長の発言への好感などを反映し、4営業日ぶりに反発した。オイルメジャーのシェルが、BP買収に動いているとの観測も市場に流れた。8月物終値は0.55ドル高の64.92ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の、6月25日発表の20日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比580万バレル減と市場予想（50万バレル）を上回る取り崩しで、ガソリン在庫は同210万バレル減、中間留分在庫は同410万バレル減と、好調な出荷を好感して、値上がり要因となった。

EIAによると、6月23日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比7.4セント高の1ガロン3.213ドル（122.8円/ℓ）と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比20.4セント高の1ガロン3.775ドル（144.3円/ℓ）と3週連続の値上がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、6月20日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基減の438基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年06月15日～06月21日に休止したトッパー能力は69.9万バレル/日で、前週に対して0.8万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は226.6万klと、前週に比べ5.4万kl減少。前年に対しては1.1万klの減少。トッパー稼働率は65.5%と前週に対して1.5ポイントの減少、前年に対しては2.2ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

6月21日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、灯油、軽油、A重油で取り崩しとなり、C重油は積み増しとなった。

ガソリンは178.2万kl、前週差10.4万kl減。前年に対しては5.9万kl少ない。

灯油は199.6万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては30.1万kl多い。

軽油は163.3万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては7.1万kl多い。

A重油は70.4万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては4.7万kl少ない。

C重油は164.6万kl、前週差3.4万kl増。前年に対しては18.5万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (6/21)	前週 (6/14)	前週比
ガソリン	1,782	1,886	▼ -104 (-6%)
ジェット燃料	881	888	▼ -7 (-1%)
灯油	1,996	2,013	▼ -17 (-1%)
軽油	1,633	1,639	▼ -6 (-0%)
A重油	704	714	▼ -10 (-1%)
C重油	1,646	1,612	▲ 34 (2%)
合計	8,642	8,752	▼ -110 (-1.3%)

5 国内/元売会社製品卸価格

6月17日～23日のドル建て中東原油価格は前週比大きく値上りし、為替レートはほぼ横ばいで、元売会社の卸建値は大きく値上げされたものと見られる。ただ、今回の制度再改正で、6/26からの補助金は13.4円(揮発油・軽油、灯油・重油の場合は6.7円)と増額されたが、実質卸価格も大きく値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

6月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.6円高の172.8円、軽油も同1.5円高の153.1円、灯油は18%ベースで同16円高の121.9円(1%ベースでも0.9円高の121.9円)。ガソリンは9週ぶりの値上がり、軽油も9週ぶりの値上がり、灯油も9週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが43都道府県、横ばいが1県(岡山県)、値下がり3県だった。全国最安値は愛知県の166.0円、その次は埼玉県の166.5円であった。他方、最高値は鹿児島県の182.6円。最も値上がりしたのは島根県(同3.9円高)、最も値下がりしたのは高知県(同0.8円安)だった。

次回調査時(6/30)のガソリンの小売価格は、「予防的な激変緩和措置」の発動により、補助金が増額されるものの、値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/23)	前週 (6/16)	前週比	直近高値
レギュラー	172.8	171.2	▲ 1.6	2023/9/4 2025/4/14
灯油	121.9	121.0	▲ 0.9	08/8/11
軽油	153.1	151.6	▲ 1.5	08/8/4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

小売価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第13号) の公表は、7/4 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。